



ぎ ふ ちゅうおう

岐阜県岐阜市立

岐阜中央中学校

家庭学習で個別最適化されたふりかえり

～主体的な学習と基礎・基本の定着を支援～

岐阜市では、一人一台タブレット端末を整備し、各教科でＩＣＴを活用した授業を目指しています。学習指導要領の改訂に伴い、学習評価と関連させながら家庭学習でeライブラリを活用する事例を紹介します。

個別最適化された学びをかんたん操作で提供

課題

対象

中学 1 年 1 組

☒ 個別出題 (自動で教材構成) ☐ 全員共通出題 (先生が教材を選択)

確認

名称

課題 平面図形

※40文字まで

単元

新しい数学 1
平面図形

出題モード

☒ 一斉学習モード

時間

40分

開始時刻

☒ すぐに始める ()
2021/05/07

操作制御

☐ 児童生徒は「先生」

課題内容

学年: 中学 1 年 クラス: 1 組 教科: 数学
単元: 平面図形

氏名	合計教材数	基本	発展	挑戦	解説教材
黒川 大志	6	0	6	0	0
黒川 大志	10	2	6	0	2
黒川 大志	10	4	2	0	4
黒川 大志	6	0	6	0	0
黒川 大志	7	2	3	0	2
黒川 大志	8	0	8	0	0
黒川 大志	6	6	0	0	0

▲ 生徒に合った課題をかんたん操作で自動個別出題

数学

1年：平面図形

1 学年担任の寺澤先生は、授業をふりかえるため、e ライブラリを家庭学習と学校のスキマ時間を見つけて活用しています。

eライブラリの「自動個別課題」は学習結果に応じて、生徒一人ひとりに合った教材を簡単な操作で出題することができます。生徒はお互いに課題を見合い、「違う問題が出ている！」とわくわくしながら、自分のための課題を学習します。

先生は、苦手な生徒がつまずいている教材を、ドリル結果詳細で把握し、個別指導につなげます。

■eライブラリの「取組みカード」で主体的な学びをサポート

[illegible]

▲ 寺澤先生オリジナルの「取組みカード」

e ライブラリで学ぶ習慣をつけるために作成した「取組みカード」を使うと、自分の学習記録をふりかえりやすくなります。先生は、単元末までに、全員が必ず1回は学習するように声をかけます。何度も学習した生徒の「取組みカード」にはたくさん色が塗られ、学習意欲がアップします。

また、各教材のタイトルが記載されているため、生徒は自宅で迷うことなく教材を選ぶことができます。**1回分の教材が、1時間の授業で学習する内容とほぼ同じなので、その日の授業をふりかえることに便利な構成になっています。**

インタビュー

目には見えにくい生徒の主体的な学習を支援する

eライブラリは選択式を中心としており、短時間で多くの問題に取り組むことができるため、この半年で生徒に基礎・基本が身に付いてきました。毎日、取り組んでほしいという思いから、「取組みカード」を作成したところ、生徒は迷うことなく教材を選ぶことができ、スムーズに学習に取り組むことができます。

教員の負担を抑えることも特長の一つですが、何よりも**生徒の個別最適化された学びが実現される**ことが一番の魅力です。挙手の回数やノートの取り方に表れない、生徒自身が苦手を克服しながら学習を調整していく力をeライブラリで身につけさせたいと考えています。



1 学年担任
寺澤 浩平先生

「eライブラリ+一人一台タブレット」を市内でいち早く

家庭学習における ICTを活用した学習支援の在り方



岐阜市立岐阜中央中学校
教諭 寺澤 浩平

▲ 岐阜市のオンライン公表会で、eライブラリの活用実践を共有

寺澤先生は、一人一台タブレットの導入と同時進行で、eライブラリを使い続けています。過去の「e L Aつつしん」を読み込み、試行錯誤をしながら、ご自身の中で活用案を考え出されました。その活用事例は、岐阜市主催のオンライン公表会で市内外の先生方へ発信されています。

初めの頃は、生徒のeライブラリの学習回数に差がありましたが、今では「取り組みカード」や「自動個別課題」を使い、こつこつ取り組んだ結果が出ています。**前回の学習内容を理解し**

た状態で、授業に臨める生徒が増えてきたという実感を持って、活用事例を紹介していただきました。

先生の工夫

- 「取り組みカード」に学習状況を記録させ、eライブラリでの学習を習慣づける
- 「成績管理」から苦手教材のある生徒の把握と個別指導へ生かす
- ドリル学習で蓄積した履歴から、単元末に「自動個別課題」で苦手教材を克服させる
- 単元の応用問題を高校入試過去問で検索し、生徒へ提示する

生徒の感想

- 休み時間にさっと取り組むことができ、今日の授業の学び直しができるのは便利です。
- わたしは数学が苦手なので、基本・標準・挑戦と難易度が3つあるのは嬉しいです。
- 授業で覚えることが多いときは、学習を終えた日にしっかりeライブラリに取り組んだり、「取り組みカード」に大切だと思ったことを書いたりすることができて良いです。

インタビュー 「eライブラリ+教員の見届け」で家庭学習を支援

eライブラリの学習履歴は、ドリル結果詳細を分析することも、過去の成績一覧で全体的な傾向を把握することもできます。教員の使い方次第では、両方のデータを参考にしながら、生徒の家庭での取り組み状況を確認する十分な判断材料になり得ます。

生徒自身に学習計画表を作成させたり、個人面談や保護者面談で取り組み具合を見取ったりしながら、eライブラリの家庭学習を推進しています。**eライブラリを介して、教員が生徒の学習を見届けることで、授業とは違った学びの場を提供できる**と考えています。



校長
上松 英隆 先生



教育委員会 学校指導課
和泉 宏紀 指導主事

基礎・基本から発展的な学習まで幅広く学習できるツール

どの学力層に対しても、個別最適化された教材が配信されるA I型ドリルは、児童生徒が意欲的に学ぶ大きな後押しになります。知識・技能を結び付けたり、思考・判断・表現したりする前の段階で、基礎・基本を定着させるには非常に有効です。**ドリル教材の読解スキルや、プリント教材の思考力問題など、複合的な能力をはかる問題も収録されている**ので、今後は、基礎・基本を超えて児童生徒の力を伸ばせると期待しています。